

MA 点検整備

目次

概要	MA-3
準備品	MA-3
特殊工具	MA-3
汎用工具	MA-4
一般計測機器	MA-5
油脂及びその他	MA-5
点検整備要領	MA-6
動力伝達装置	MA-6
マニュアルトランスミッション	MA-6
オートマチックトランスミッション	MA-6
トランスファー	MA-6
プロペラシャフト及びドライブシャフト	MA-6
ディファレンシャル（フロント）	MA-7
交換部品整備要領	MA-8
ブレーキホース	MA-8
マスターシリンダー、ホイールシリンダー及び	
ディスクキャリパーのカップ、ダストシール	MA-10
フロントディスクブレーキ	MA-10
ディファレンシャルギヤオイル（フロント）	MA-11
マニュアルトランスミッションオイル	MA-12
オートマチックトランスミッションフルード	MA-13
トランスファーオイル	MA-13
エンジンオイル	MA-14
主な点検整備要領	MA-15
クラッチ	MA-15
ペダルハイト	MA-15
オートマチックトランスミッション	MA-15
インヒビタースイッチ	MA-15
A/Tポジション	MA-16
トランスファー	MA-16
フロントオイルシール	MA-16

目 次

リヤオイルシール	MA-16
プロペラシャフト	MA-17
フロントファイナルドライブ	MA-20
フロントオイルシール	MA-20
右側サイドオイルシール	MA-22
左側サイドオイルシール	MA-22

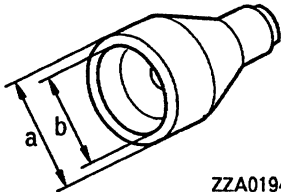
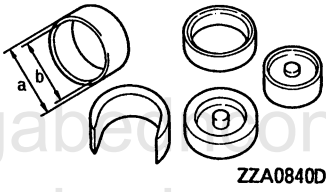
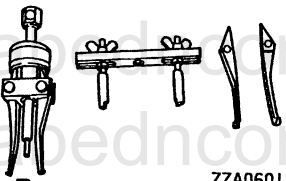
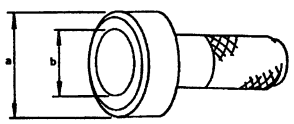
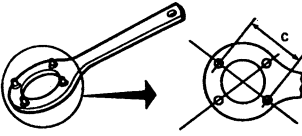
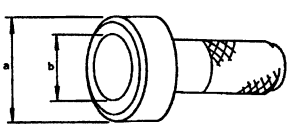
@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused

概要・準備品

概要

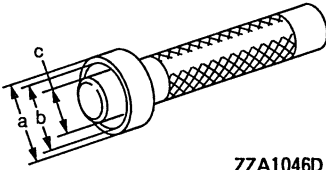
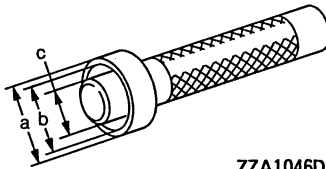
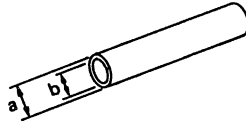
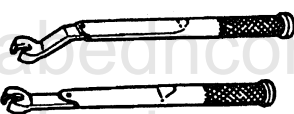
ここでは、4WD車について記載する。ただし、2WD車との共通部分については「スカイラインR33型整備要領書点検・脱着版 (A006023)」を参照のこと。

準備品 特殊工具

名 称	用 途	備 考
ドリフト ST2786 2000 a : $\phi 62.5\text{mm}$ b : $\phi 42\text{mm}$	 ZZA0194D	トランスファーフロントオイルシール取り付け
ドリフト KV401 048S0 KV401 04810 KV401 04820 (a:70mm b:63.5mm) KV401 04830 KV401 04840 KV401 04850	 ZZA0840D	トランスファーリヤオイルシール取り付け
オイルシールプーラー KV381 054S0 (旧 ST3329 0001)	 ZZA0601D	トランスファーリヤオイルシール取り外し ファイナルドライブフロントオイルシール取り外し
ドリフト ST3072 0000 a : $\phi 77\text{mm}$ b : $\phi 55.5\text{mm}$	 ZZA0811D	トランスファーリヤオイルシール取り付け
フランジレンチ ST3153 0000 c : 70mm	 ZZA1021D	ピニオンナット取り外し
ドリフト ST3340 0001 a : 60mm b : 47mm	 ZZA0811D	フロントデフオイルシール取り付け

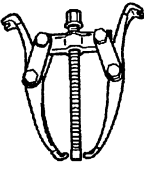

既 設

準備品

名 称	用 途	備 考
デフサイドベアリングドリフト KV381 02100 a : $\phi 44\text{mm}$ b : $\phi 36\text{mm}$ c : $\phi 24.5\text{mm}$	 ZZA1046D	左側デフサイドオイルシール 取り付け
デフサイドベアリングドリフト ST3323 0000 a : $\phi 51\text{mm}$ b : $\phi 41\text{mm}$ c : $\phi 28\text{mm}$	 ZZA1046D	右側デフサイドオイルシール 取り付け
ドリフト ST2235 0000 a : $\phi 34\text{mm}$ b : $\phi 28\text{mm}$	 ZZA0534D	左側デフサイドオイルシール 取り付け
ブレーキチューブ トルクレンチ GG9431 000	 ZZA0750D	フレアナットの締め付け

既 設

汎用工具

名 称	用 途	備 考
プーラー HT7235	 ZZB0807D	コンパニオンフランジ取り外し
デフフランジツール HT7278	 ZZB0700D	コンパニオンフランジ脱着

既 設

準備品

一般計測機器

名 称	用 途
ダイヤルゲージ	サイドシャフト軸方向エンドプレー測定
ディプスゲージ(マイクロメータータイプ)	サイドシャフトエンドプレー測定

油脂及びその他

名 称	用 途
ニッサンMPスペシャルグリース No.2	各部塗布
スリーボンド 1215(KP610 00250)	ドレーンプラグ、フィルタープラグに塗布
ニッサンミッションオイルMP-GスペシャルGL-4 75W-90	分解整備時に給油
ニッサンマチックフルードD	分解整備時に給油
ニッサンデフオイルハイポイドスーパー LSD GL-5 80W-90	分解整備時に給油
ブレーキフルード No.2500	分解整備時に給油
ニッサンディスクブレーキグリース (KRF16 00005)	キャリパー分解整備時に塗布
ニッサンラバーグリース (KRE00 00010)	分解整備時に給油

@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused

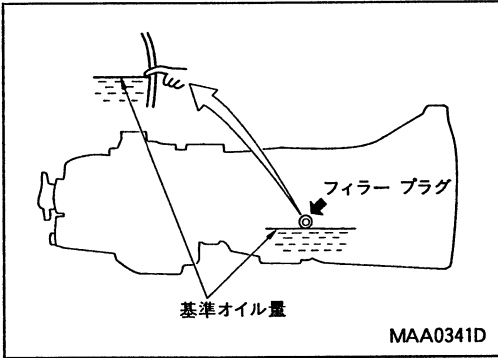
動力伝達装置

マニュアルトランスミッション

油漏れ及び油量

- トランスミッションの周辺から油漏れがないか点検する。
- フィラープラグ穴より左図のようにし、基準量内にあるか点検する。

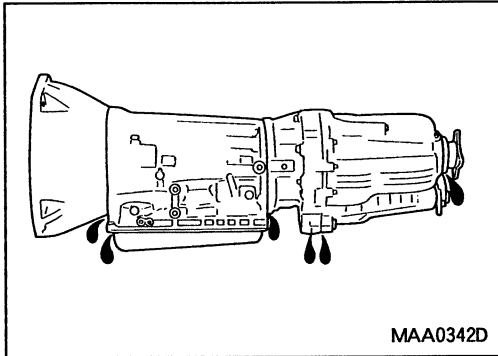
オイル量 : 約4.1ℓ (油面がプラグ穴下端)



オートマチックトランスミッション

油漏れ及び油量

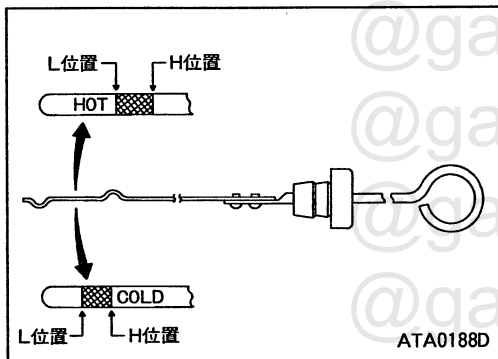
1. トランスミッションの周辺から油漏れがないかを点検する。



2. 約10分間走行後、車両を水平な場所に置き、アイドリング状態で駐車ブレーキペダルをいっばいに踏み込み、セレクトレバーを各レンジに一巡させたあとP又はNレンジにして、オイルレベルゲージで測定する。

注意 : トランスミッション用のオイルレベルゲージにはCOLDレベルとHOTレベルの表示があるが、定期点検にあつてはHOTレベルで上記の方法で測定する。

フルード量 : 約8.3ℓ (ATのみ)

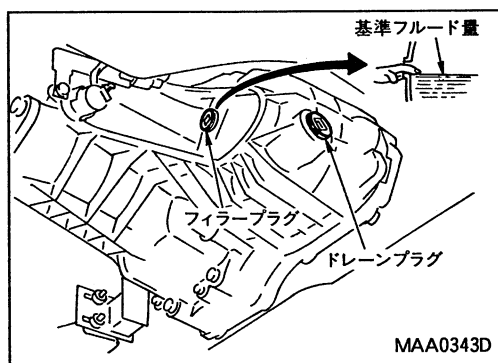


トランスファー

油漏れ及び油量

- トランスファーの周辺から油漏れがないか点検する。
- フィラープラグ穴より左図のようにし、基準値内にあるか点検する。

フルード量 : 約1.8ℓ (油面がプラグ穴下端)



プロペラシャフト及びドライブシャフト

連結部の緩み

- ヨークフランジの取付ボルト、センターベアリングブラケットの取付部に緩みがないかをスパナで点検する。

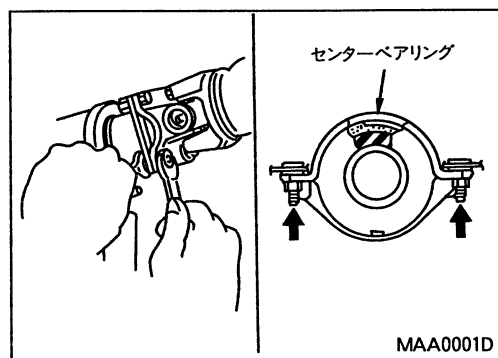
取付ボルト締付トルク (N・m [kg・m])

2S56A (フロント) ヨークフランジ側 : 24 ~ 32 {2.4 ~ 3.3}

3F80A-2VL107 (リヤ)

ヨークフランジ側 : 69 ~ 78 {7.0 ~ 8.0}

レブジョイント側 : 64 ~ 74 {6.5 ~ 7.5}



点検整備要領

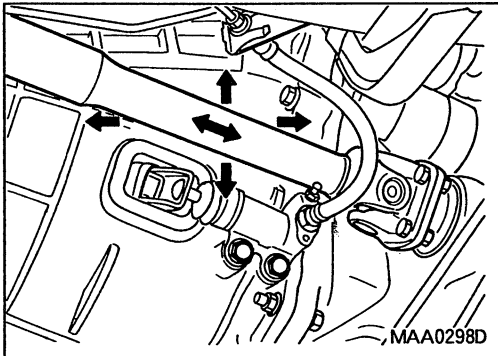
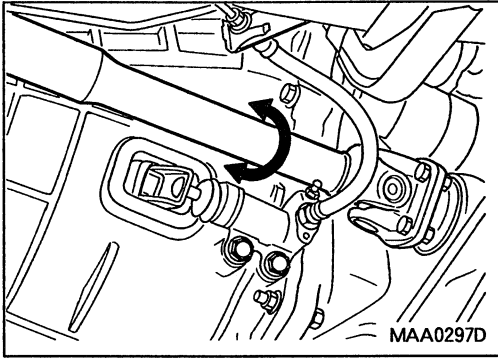
動力伝達装置 (続き)

スプライン部のガタ

- プロペラシャフトを手で回し、スプライン部にガタがないか点検する。
- スプライン部にガタがある場合は、プロペラシャフトASSYで交換する。
- ドライブシャフトを手で回し、スプライン部にガタがないかを点検する。

スプライン部ガタ (mm) : 0

- スプライン部にガタがある場合は、ドライブシャフトASSYで交換する。

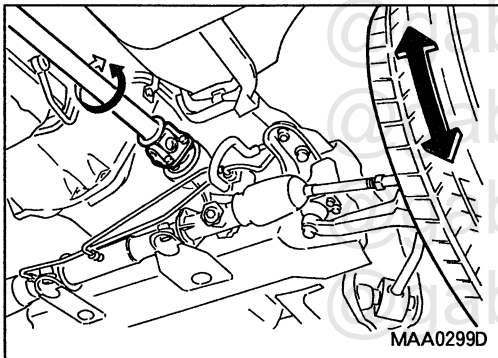


自在継手部のガタ

- プロペラシャフトの自在継手部を手で上下、左右（シャフトの軸方向と直角方向）に動かし、自在継手部にガタがないかを点検する。
- ドライブシャフトのジョイント部を手で上下、左右（シャフトの軸方向と直角方向）に動かし、ジョイント部にガタがないかを点検する。

プロペラシャフトの振れ

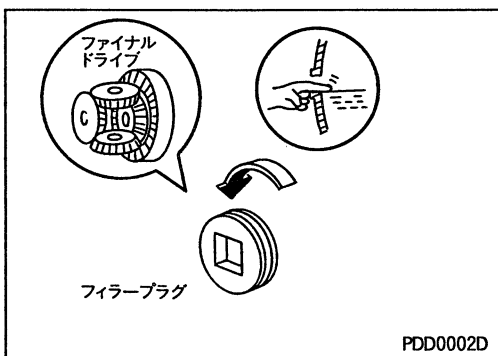
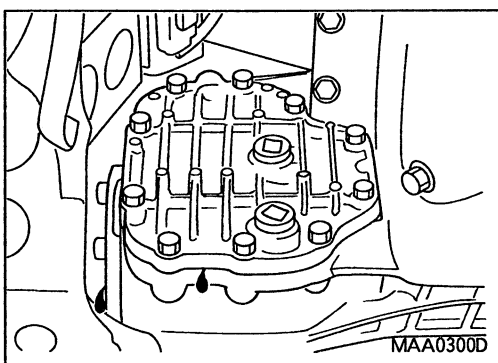
- 走行するか又はテストローラーに乗せて後輪などを駆動し、振動などからプロペラシャフトに振れがないかを点検する。



ディファレンシャル (フロント)

油漏れ及び油量

1. ディファレンシャル周辺（フロントオイルシール、サイドオイルシール、ドレーンプラグ、フィルタープラグ、ディファレンシャルケース）から油漏れがないかを点検する。
2. フィラープラグを取り外し油量が規定のレベルまであるか指で触れるなどして点検する。



ブレーキホース

フロントブレーキホース

注意： 取り付け時にねじれ及び折れがないこと。

- ステアリングを左右に切ったとき、他部品に干渉がないこと。
- 重要保安部品のため、ブレーキフルードの漏れを発見した場合は、必ず部品を分解し、異常があれば新品と交換する。

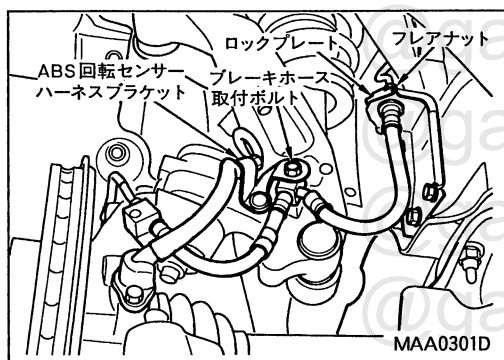
交換時期

自家用： 初回5年目、その後4年ごと。

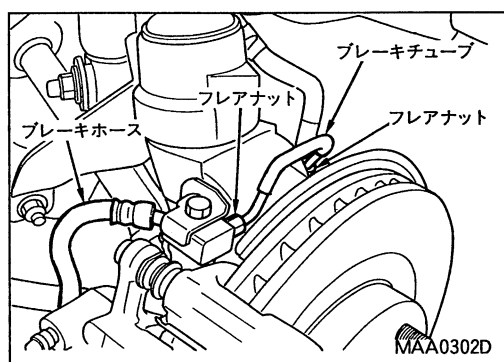
事業用等： 4年ごと。

取り外し

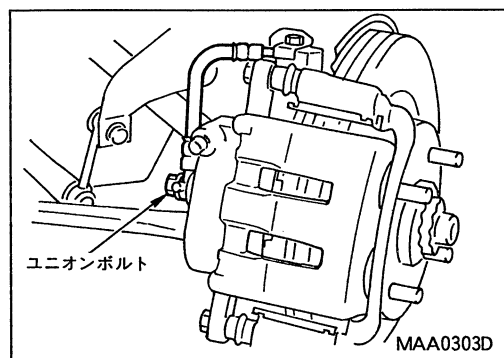
1. エアブリーダーにビニールチューブを接続する。
2. ブレーキペダルを踏み込み、各輪のエアブリーダーよりブレーキフルードを徐々に排出する。
3. ブレーキフルードラインの接続部にゴミやホコリなどの異物が入らないようカバーをする。



4. 車両側ブレーキチューブのフレアナットをフレアナットレンチを使用して取り外し、ブレーキホースとの接続を分離する。
5. ロックプレートを取り外す。
6. ABS回転センサーハーネスブラケット及びブレーキホース取付ボルトを取り外す。



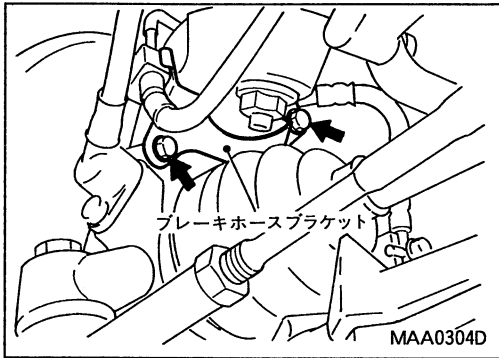
7. 左図ブレーキチューブのフレアナットをフレアナットレンチを用いて外し、ブレーキホースより分離する。



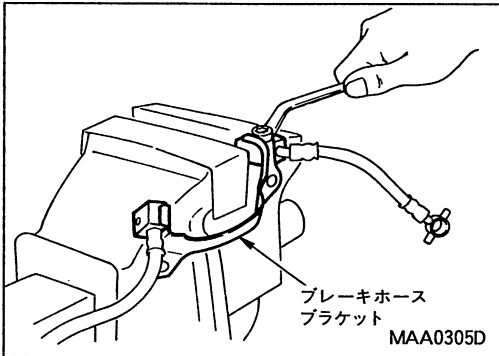
8. ユニオンボルトを取り外しキャリパーASSYとブレーキホースを分離する。

交換部品整備要領

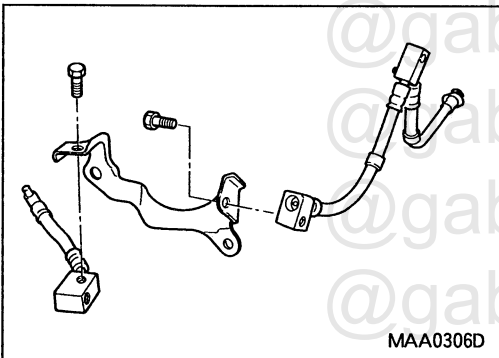
ブレーキホース (続き)



9. ブレーキホースブラケット取付ボルト (2本) を外しブラケットと共にブレーキホースを車両より取り外す。



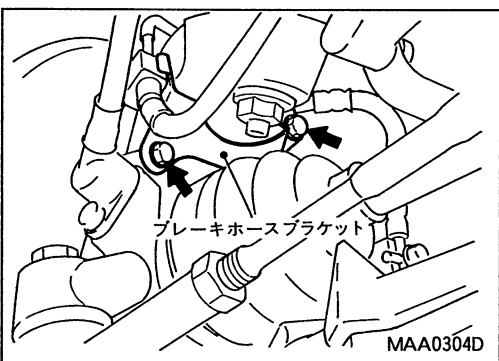
10. ブレーキホースを万力で固定しブレーキホース取付ボルトを外しブレーキホースとブラケットを分離する。



取り付け

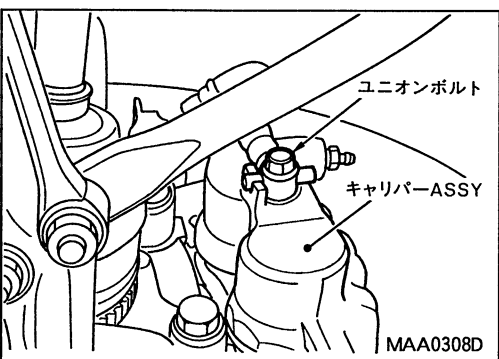
1. ブレーキホースブラケットにブレーキホースを取り付け取付ボルトを規定トルクで締め付ける。

締付トルク (N-m [kg-m]) : 11 ~ 16 {1.1 ~ 1.6}



2. ブレーキホースブラケットをナックルに取り付け取付ボルトを規定トルクで締め付ける。

締付トルク (N-m [kg-m]) : 11 ~ 16 {1.1 ~ 1.6}



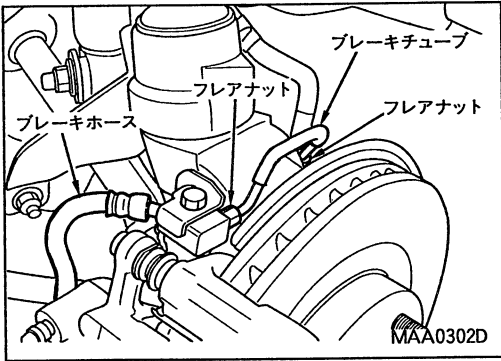
3. ブレーキホースをキャリパーASSYに取り付けユニオンボルトを規定トルクで締め付ける。

締付トルク (N-m [kg-m]) : 17 ~ 20 {1.7 ~ 2.0}

注意 : 銅ワッシャーは再使用不可部品のため取付時は新品と交換する。

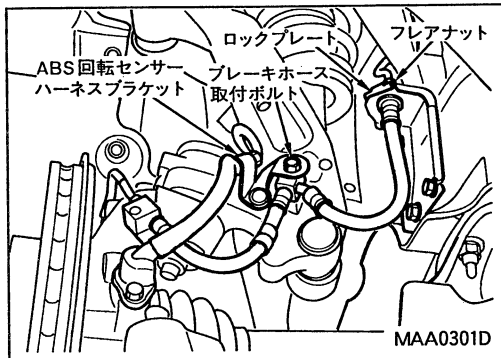
交換部品整備要領

ブレーキホース (続き)



4. ブレーキホースにブレーキチューブを取り付けフレアナットを手で回るところまで仮締めしその後規定トルクで締め付ける。

締め付トルク (N-m {kg-m}) : 15 ~ 18 {1.5 ~ 1.8}



5. ブレーキチューブにブレーキホースを取り付け、フレアナットを手で回るところまで仮締めし、ブラケットに取り付け、ロックプレートで固定した後規定トルクで締め付ける。

締め付トルク (N-m {kg-m}) : 15 ~ 18 {1.5 ~ 1.8}

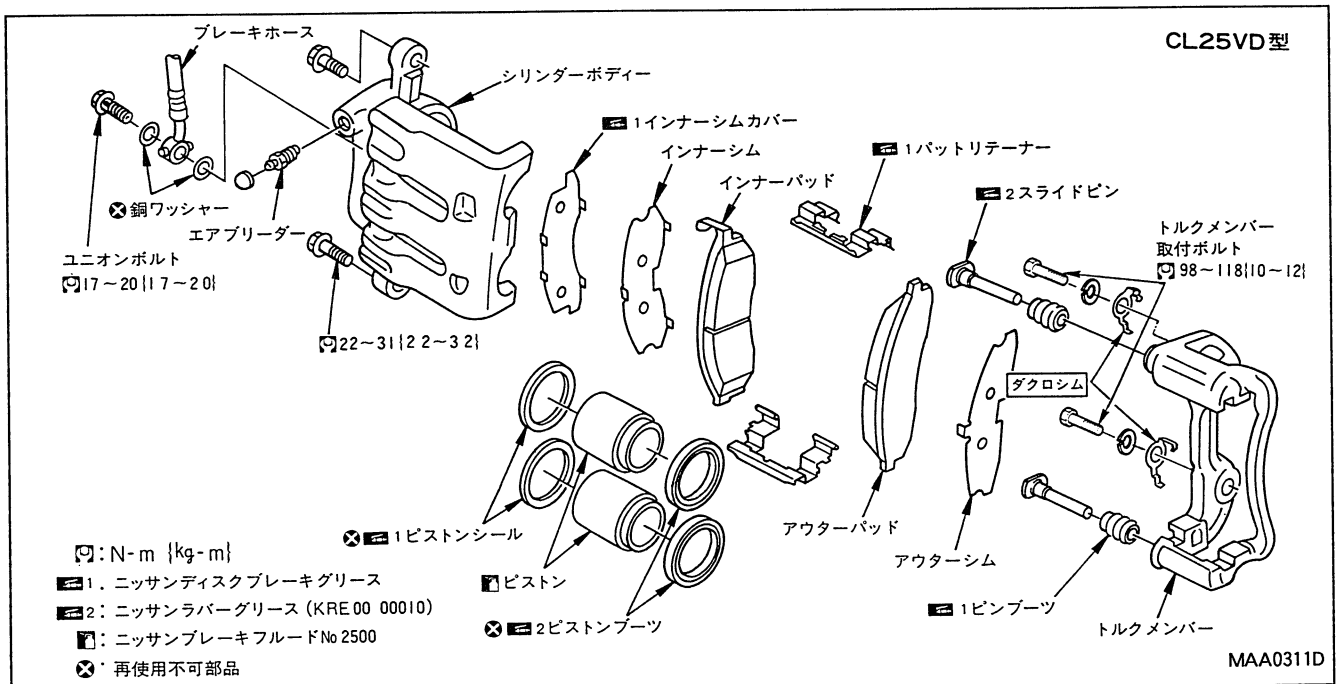
6. ブレーキホース及びABS回転センサーハーネスブラケットを取り付ける。

7. 作業終了後、エア抜きを行う。

マスターシリンダー、ホイールシリンダー及びディスクキャリパーのカップ、ダストシール

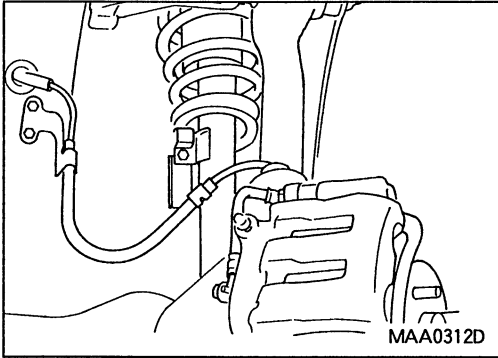
フロントディスクブレーキ

- 注意 : • キャリパー及びパッドに付着した粉じんは、集じん機で集め清掃する。エアブローなどで飛散させないこと。
 • シリンダーボディを外している間、ピストンが急に飛び出す恐れがあるため、ブレーキペダルを絶対に踏み込まないこと。
 • キャリパーASSYの分解又は交換を除いては、トルクメンバー及びブレーキホースの取付ボルトを取り外す必要はない。またこのときブレーキホースを引き伸ばさないようにシリンダーボディを針金などで吊しておくこと。
 • ピストンブーツに損傷を与えないよう、またブレーキフルードをローターに付着させないように注意する。



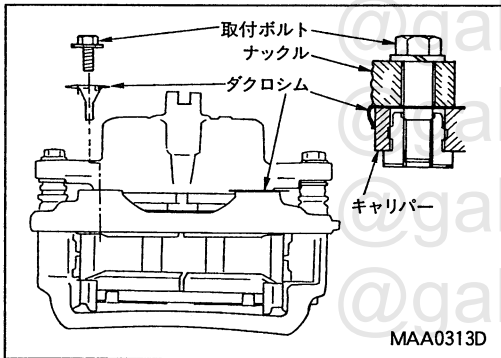
交換部品整備要領

マスターシリンダー、ホイールシリンダー及びディスクキャリパーのカップ、ダストシール (続き)



取り外し

1. エアブリーダーにビニールチューブを接続する。
2. ブレーキペダルを踏み込み、エアブリーダーより徐々にブレーキフルードを排出する。
3. キャリパーASSYに接続しているブレーキホースをユニオンボルトを取り外して分離する。
4. トルクメンバーの取付ボルトを取り外しキャリパーASSYを車両より取り外す。
5. トルクメンバーよりダクロシムを取り外す。
6. ディスクローターを取り外す。



取り付け

1. キャリパーASSYにダクロシムを取り付ける。
2. キャリパーASSYを車両に取り付け、取付ボルトを規定トルクで締め付ける。

締付トルク (N-m [kg-m]) : 98 ~ 118 {10 ~ 12}

注意 : ブレーキホースをキャリパーASSY取付部の突起部に確実に組み付けること。

3. キャリパーASSYにブレーキホースを取り付け、ユニオンボルトを仮締めする。
4. ユニオンボルトを規定トルクで締め付ける。

締付トルク (N-m [kg-m]) : 17 ~ 20 {1.7 ~ 2.0}

注意 : 銅ワッシャーは再使用不可部品のため取り付け時は新品と交換する。

5. キャリパーASSY取付後、新品のブレーキフルードを補充しエア抜きを行う。

ディファレンシャルギヤオイル (フロント)

交換時期

F160

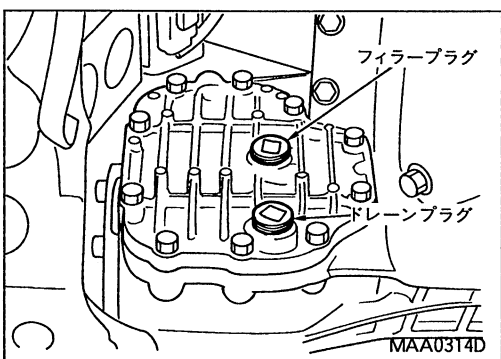
事業用等 : 100,000km又は2年ごと

抜き

1. ドレインプラグを外し、デフオイルを抜き取る。
2. ドレインプラグにスリーボンド1215 (KP610 00250) を塗布し、ファイナルドライブに取り付け規定トルクで締め付ける。

ドレインプラグ締付トルク (N-m [kg-m])

: 39 ~ 59 {4.0 ~ 6.0}



交換部品整備要領

ディファレンシャルギヤオイル (フロント) (続き)

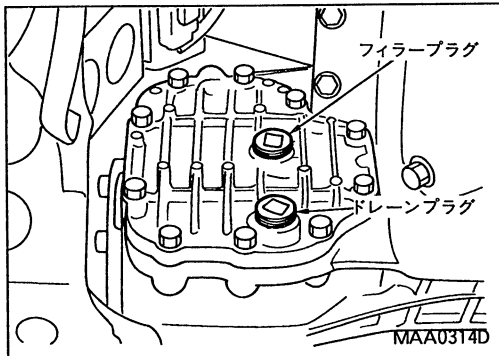
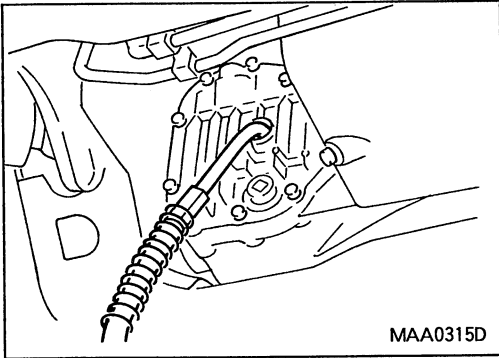
注入

1. フィラープラグを外し、新品のデフオイルを給油する。

使用オイル名称

F160 : ニッサンデフオイルハイポイドスーパーGL-5 80W-90
オイル量 (ℓ)

F160 : 約1.0



2. フィラープラグにスリーボンド1215 (KP610 00250) を塗布し、ファイナルドライブに取り付け規定トルクで締め付ける。

フィラープラグ締め付トルク (N-m [kg-m])

F160 : 39 ~ 59 {4.0 ~ 6.0}

マニュアルトランスミッションオイル

交換時期

自家用 : 分解整備時に給油

事業用等 : 100,000km又は2年ごと

抜き

1. エンジンを始動し、トランスミッション本体を十分に暖機する
2. エンジンを停止後、ドレインプラグを取り外し、オイルを抜く。
3. ドレインプラグにシール剤 (スリーボンド1215又は相当品) を塗布し、ミッション本体に取り付け、規定トルクで締め付ける。

締め付トルク (N-m [kg-m]) : 24.5 ~ 34.5 {2.5 ~ 3.5}

注入

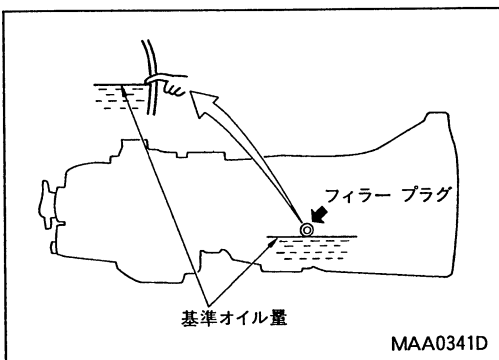
1. フィラープラグを取り外し、新しいオイルをフィラープラグの取付穴の位置まで注入する。

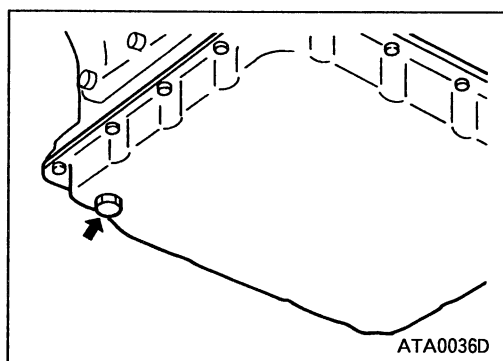
使用オイル及び量

ニッサンミッションオイル MP-G GL-4 75W-90 (約4.1ℓ)

2. フィラープラグにシール剤 (スリーボンド1215又は相当品) を塗布し、ミッション本体に取り付け、下記規定トルクで締め付ける。

締め付トルク (N-m [kg-m]) : 24.5 ~ 34.5 {2.5 ~ 3.5}





オートマチックトランスミッションフルード

交換時期

- 分解整備時のみ給油を行う。

抜き

1. エンジンを始動し、トランスミッション本体を十分に暖機する。
2. エンジンを停止し、ドレーンプラグを取り外し、A/Tフルードを抜く。
3. ドレーンプラグをオイルパンに取り付け、下記規定トルクで締め付ける。

締め付トルク (N-m [kg-m]) : 29 ~ 39 {3.0 ~ 4.0}

注意 : ドレーンプラグ取り外し後の銅ワッシャーは再使用しないこと。

注入

1. オイルレベルゲージをチャージングパイプより取り外す。
2. チャージングパイプから、新しいフルードを注入する。
3. 注入後は、オイルレベルゲージで規定範囲内までフルードが入っていることを確認する。

(「点検整備要領オートマチックトランスミッション油漏れ及び油量」の項参照)

フルード名称及び量 : オートマチックフルードD (約8.3ℓ)

トランスファーオイル

交換時期

- 分解整備時のみ給油を行う。

抜き

1. 車両を走行させ、トランスファー本体を十分に暖機する。
2. エンジンを停止後、ドレーンプラグを取り外し、トランスファーのオイルを抜く。
3. ドレーンプラグにスリーボンド1215 (KP610 00250) を塗布し、トランスファー本体に取り付け規定トルクで締め付ける。

ドレーンプラグ締め付トルク (N-m [kg-m])

: 24.5 ~ 34.3 {2.5 ~ 3.5}

注入

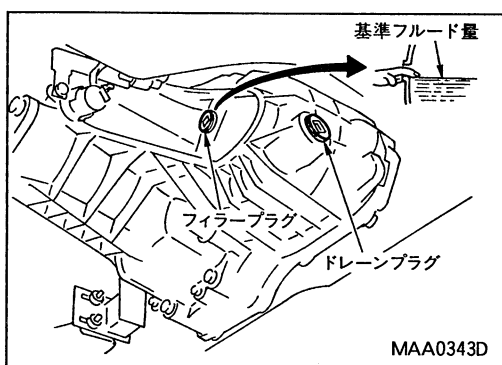
1. フィラープラグを取り外し、新しいニッサンマチックフルードDをフィラープラグの取付穴の位置まで注入する。

フルード量 (ℓ) : 約1.8

2. フィラープラグにスリーボンド1215 (KP610 00250) を塗布し、トランスファー本体に取り付け規定トルクで締め付ける。

フィラープラグ締め付トルク (N-m [kg-m])

: 24.5 ~ 34.3 {2.5 ~ 3.5}



交換部品整備要領

エンジンオイル

交換時期

- 使用オイルにより、以下の走行距離又は期間で交換する。

SE、SF、SG級オイル	15,000km又は1年ごと
--------------	----------------

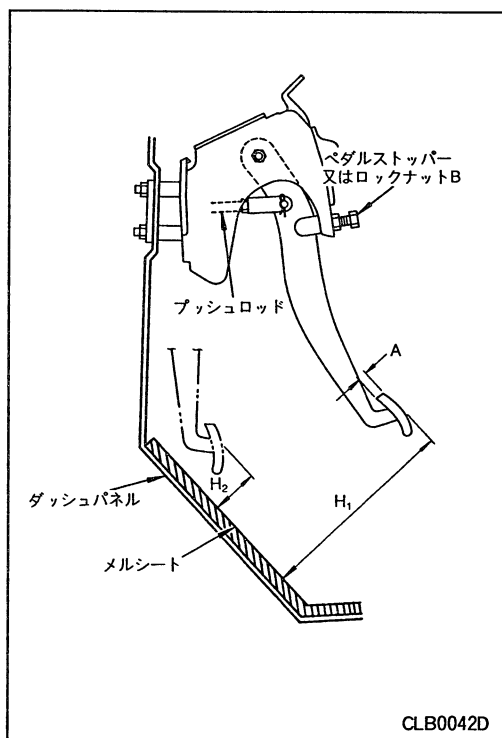
参考：サービス上のエンジンオイルは、日産純正「エクストラセーブX (7.5W-30)」を推奨する。

油量

- オイル量は、下表を参照のこと。 (ℓ)

オイル量	Hレベル	4.5
	Lレベル	3.5
オイル交換時の 補充量	オイルのみ交換時	約4.2
	オイルフィルターとオイル交換時	約4.6

@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused
@gabednconfused

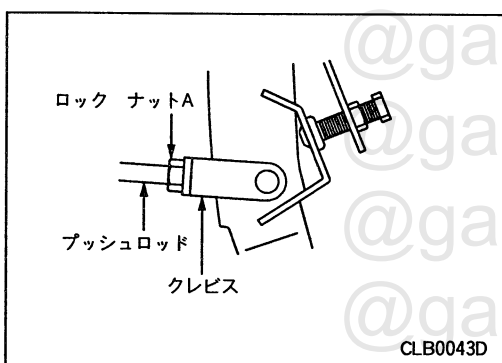


クラッチ

ペダルハイト

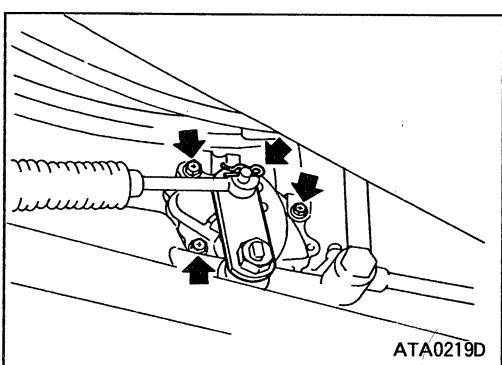
点検

1. ダッシュパネルのメルシート（ビード部を除く平面部）からクラッチペダルの高さ H_1 が基準値にあるか点検する。
ペダル高さ H_1 (mm) : 180 ~ 190
2. ペダル高さ H_1 が基準値を外れる場合は、ストッパーボルトのロックナットBを緩め、ストッパーボルトの長さで調整する。
3. ペダル高さを基準値に合わせた後、ストッパーボルトのロックナットBを規定トルクで締め付ける。
締付トルク (N-m [kg-m]) : 15.7 ~ 21.6 {1.6 ~ 2.2}
4. ペダルパット上面での遊びA及びクラッチが切れたときのペダル高さ H_2 が下記基準値にあるか点検する。
ペダルパット上面での遊びA (mm) : 9 ~ 16
クラッチが切れたときのペダル高さ H_2 (mm) : 85以上



調整

1. ペダルパット上面での遊びA及びクラッチが切れたときのペダル高さ H_2 が基準値を外れる場合は、ロックナットAを緩め、プッシュロッドを回して調整する。
注意：プッシュロッド先端のネジ部がクレビスの内側に位置していること。
2. ロックナットAを規定トルクで締め付ける。
締付トルク (N-m [kg-m]) : 7.8 ~ 10.8 {0.8 ~ 1.1}

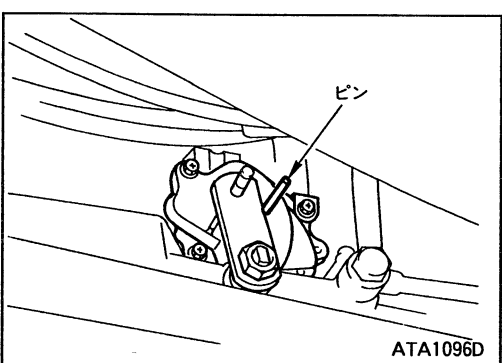


オートマチックトランスミッション

インヒビタースイッチ

取り外し

1. A/T本体マニュアルシャフトからコントロールケーブルを取り外す。
2. A/T本体のマニュアルシャフトをN位置にする。
3. インヒビタースイッチの3本の固定ボルトを緩める。



取り付け

取り付けは、下記の作業に注意し取り外しの逆の手順で行う。

- 取り付けの際は、インヒビタースイッチとマニュアルシャフトの両方にある調整穴にピンを入れることにより位置合わせをする。

主な点検整備要領

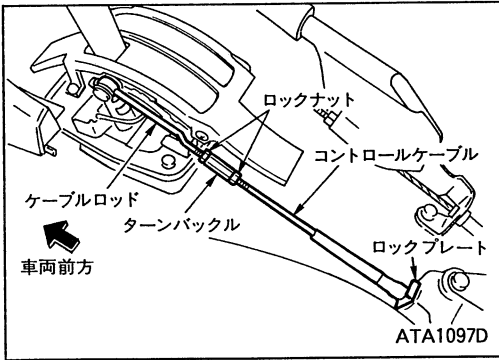
インヒビタースイッチ (続き)

A/Tポジション

調整

1. セレクトレバーをP位置にする。
2. ターンバックル及びロックナットを緩める。
3. セレクトレバーをPレンジ位置から車両後方へ押した状態でケーブルロッドのガタがなくなるまでターンバックルを締め込み、その位置からターンバックルを2/3回転戻し、車両後方側ロックナットを規定トルクで締め付ける。

締付トルク (N-m [kg-m]) : 14 ~ 16 {1.45 ~ 1.6}



トランスファー

フロントオイルシール

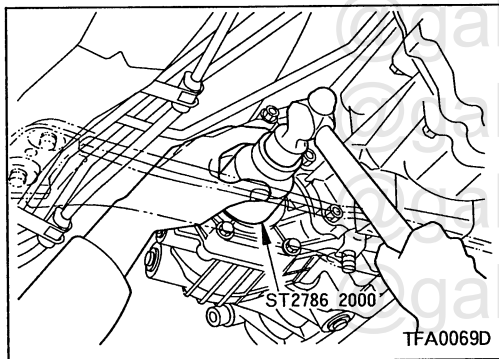
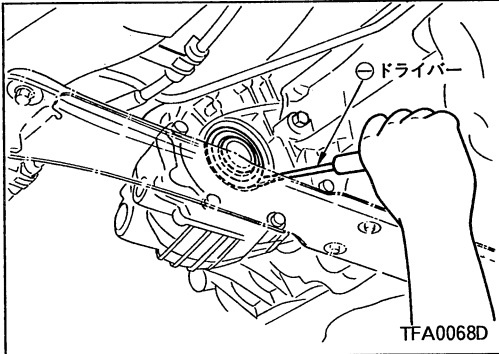
取り外し

1. トランスファーよりフルードを抜き取る。
(「交換部品整備要領トランスファーフルード」の項参照)
2. フロントプロペラシャフトを取り外す。
(「プロペラシャフト」の項参照)
3. 左図のようにドライバーを用いて、オイルシール座金部を対角線に均等にこじりながら取り外す。

注意 : 取り外したオイルシールは再使用しないこと。

取り付け

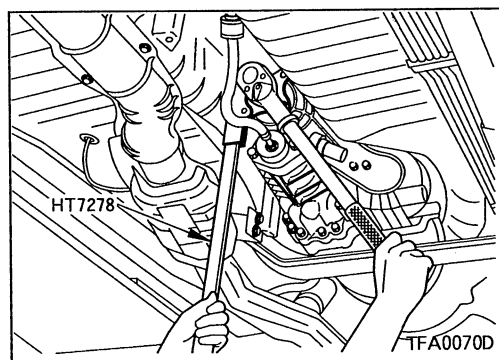
1. オイルシールは、ドリフト (特殊工具) を用いてケース端面に当たるまで打ち込む。
2. フロントプロペラシャフトを取り付ける。
(「プロペラシャフト」の項参照)
3. トランスファーにフルードを注入する。
(「交換部品整備要領トランスファーフルード」の項参照)



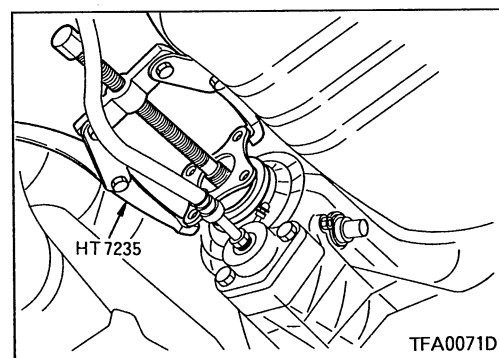
リヤオイルシール

取り外し

1. リヤプロペラシャフトを取り外す。
(「プロペラシャフト」の項参照)
2. コンパニオンフランジにフランジレンチ (汎用工具) を取り付け、フランジナットを取り外す。

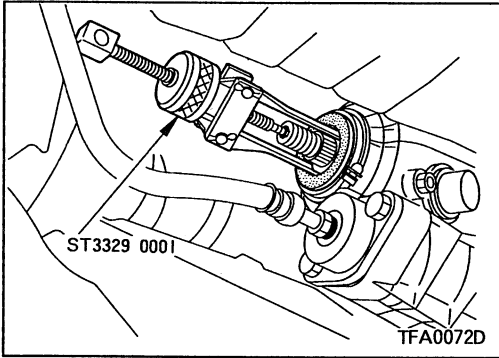


3. コンパニオンフランジをプーラー (汎用工具) をセットして取り外す。



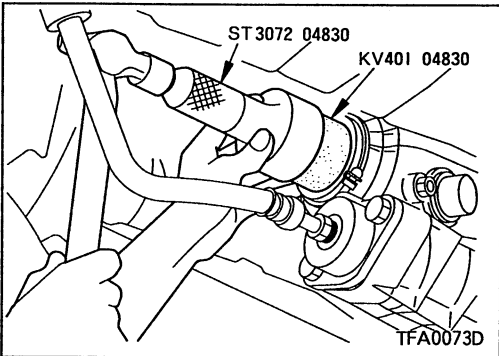
主な点検整備要領

リヤオイルシール (続き)



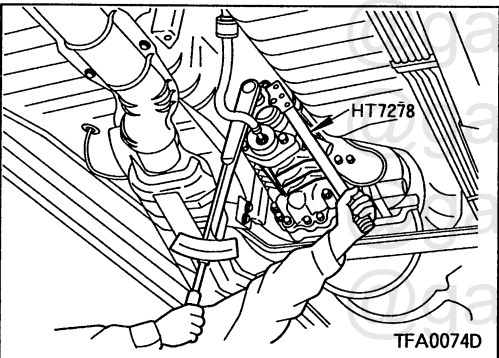
4. オイルシールプーラー (特殊工具) を使用して、オイルシールを取り外す。

注意 : 取り外したオイルシールは再使用しないこと。



取り付け

1. オイルシールは、ドリフト (特殊工具) を用いてケース端面に当たるまで打ち込む。
 2. コンパニオンフランジをゴムハンマーなどで軽打し、取り付ける。
- 注意 : コンパニオンフランジを取り付けの際は、オイルシールを傷つけないように取り付けを行う。



3. フランジナットは、フランジレンチ (汎用工具) を用いて、規定トルクで締め付ける。

締付トルク (N-m [kg-m]) : 230 ~ 310 (23.0 ~ 33.0)

注意 : フランジナットは再使用不可部品のため、取り外し後は新品と交換をすること。

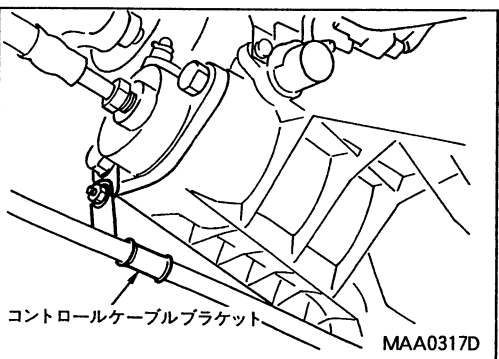
4. リヤプロペラシャフトを取り付ける。
(「プロペラシャフト」の項参照)
5. 作業終了後は、トランスファーのフルード量点検を行う。
(「点検整備要領トランスファー」の項参照)

プロペラシャフト

取り外し

フロントプロペラシャフト

AT車

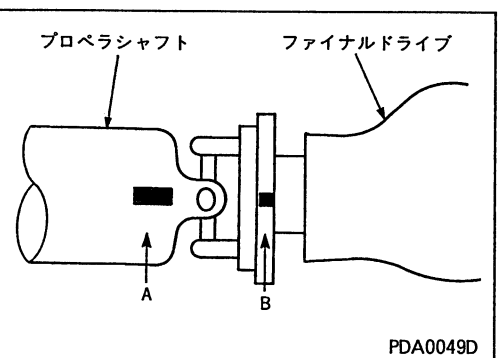


1. ロックプレート及びスナップピンを取り外し、コントロールケーブルASSYをトランスミッションより取り外す。
(「AT編シフトコントロール」の項参照)
2. コントロールケーブルブラケットを取り外す。
3. ファイナルドライブ側プロペラシャフトの合いマークAとファイナルドライブコンパニオンフランジの合いマークBを確認する。

注意 : 合いマークがない場合はペイント等を使用して合いマークを付けること。

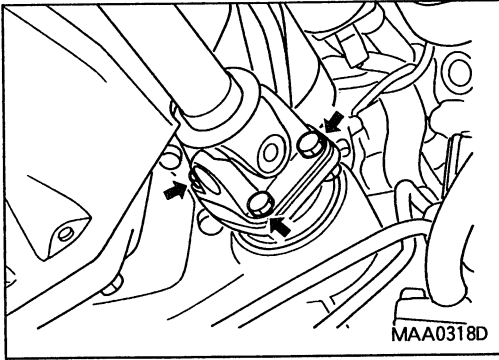
参考 :

- マークAは、プロペラシャフトのアンバランス位置 (一番軽い位置)
- マークBは、ファイナルドライブコンパニオンフランジインローが回転中心に対して外側に振れる最大位置
- マークの色は、白色でペイントされており、工場出荷時より全車にマークされている。

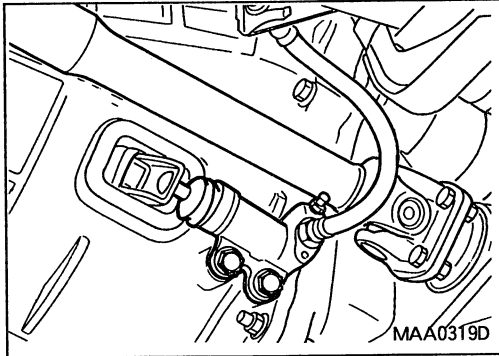


主な点検整備要領

プロペラシャフト (続き)

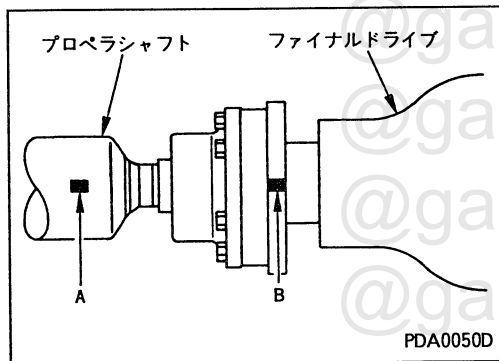


4. プロペラシャフトとファイナルドライブとの取付ボルトを（4本）を取り外す。
5. プロペラシャフトを車両前方へ引き抜き車両より取り外す。



MT車

1. クラッチのオペレーティングシリンダーをトランスミッション本体より取り外す。
2. AT車4,5、の手順でプロペラシャフトを車両より取り外す。

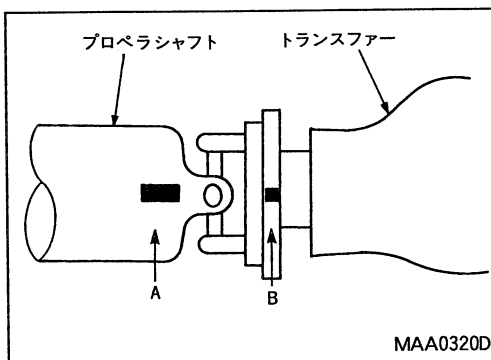


リヤプロペラシャフト

1. エキゾーストチューブを取り外す。
（「FE編エキゾーストシステム」の項参照）
2. ファイナルドライブ側プロペラシャフトの合いマークAとファイナルドライブコンパニオンフランジの合いマークBを確認する。

注意： 合いマークがない場合は、ペイント等を使用して合いマークを付けること。

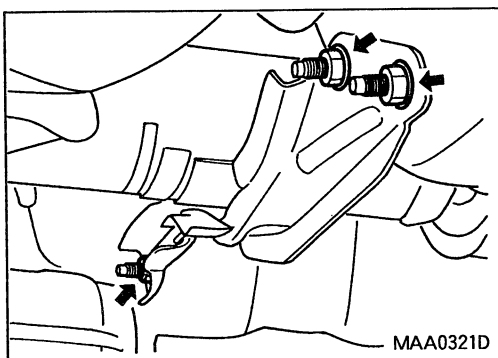
- 参考：
- マークAは、プロペラシャフトのアンバランス位置（一番軽い位置）
 - マークBは、ファイナルドライブコンパニオンフランジインローが回転中心に対して外側に振れる最大位置
 - マークの色は、白色でペイントされており、工場出荷時より全車にマークされている。



3. トランスファー側プロペラシャフトの合いマークAとファイナルドライブコンパニオンフランジの合いマークBを確認する。

注意： 合いマークがない場合はペイント等を使用して合いマークを付けること。

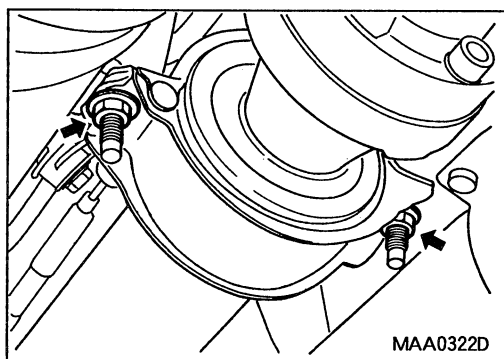
- 参考：
- マークAは、プロペラシャフトのアンバランス位置（一番軽い位置）
 - マークBは、ファイナルドライブコンパニオンフランジインローが回転中心に対して外側に振れる最大値。
 - マークの色は、白色でペイントされており、工場出荷時より全車にマークされている。



4. 左図の取付ナット（3個）を取り外し、フロアレインホースを取り外す。

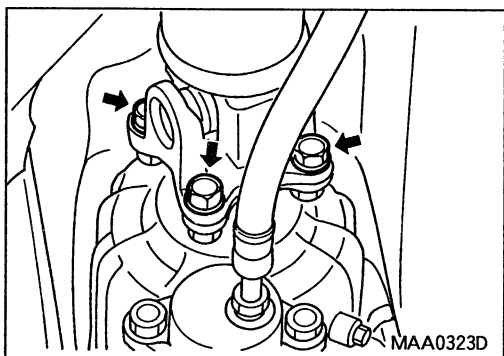
主な点検整備要領

プロペラシャフト (続き)

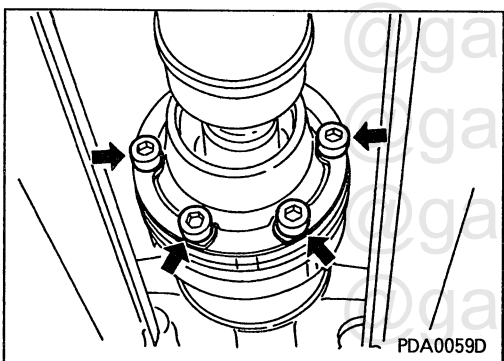


5. センターベアリングの取付ナット (2個) を緩める。

注意 : ナットは仮止めしておく。

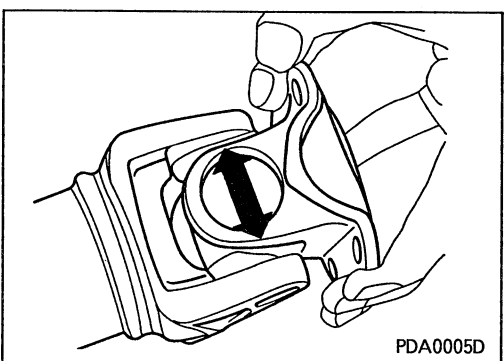


6. トランスファーのコンパニオンフランジとプロペラシャフトの取付ナット (4個) を取り外し、プロペラシャフトとコンパニオンフランジを分離する。



7. プロペラシャフトとファイナルドライブとの取付ボルト (6本) を取り外し、プロペラシャフトとファイナルドライブを分離する。

8. センターベアリングブラケットの取付ナット (2個) を取り外し、リヤプロペラシャフトを車両から取り外す。



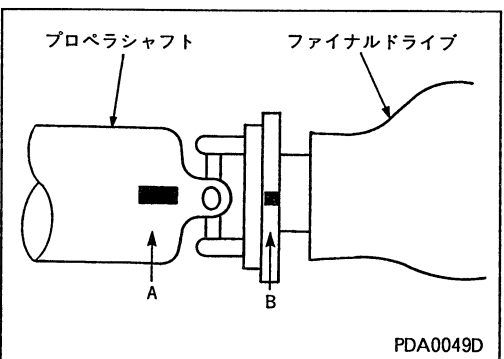
点検

1. 左図の要領で片側のヨークを固定し、ジョイントの軸方向の遊びを点検する。基準値を外れるものはプロペラシャフトASSYで交換する。

軸方向遊び限度値 (mm) : 0

2. プロペラシャフトに曲がり、傷がないか点検し、損傷がある場合はプロペラシャフトASSYで交換する。

3. センターベアリングより異音が発生していないか、また傷がないか点検し異音、傷があった場合は交換する。



取り付け

フロントプロペラシャフト

取り付けは、下記の作業に注意し、取り外しの逆の手順で行う。

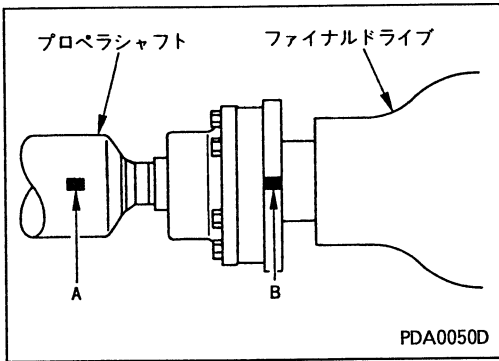
プロペラシャフトの合いマークAとファイナルドライブコンパニオンフランジの合いマークBを合わせて取り付け、規定トルクで締め付ける。

締付トルク (N·m {kg·m}) : 24 ~ 32 {2.4~3.3}

主な点検整備要領

プロペラシャフト (続き)

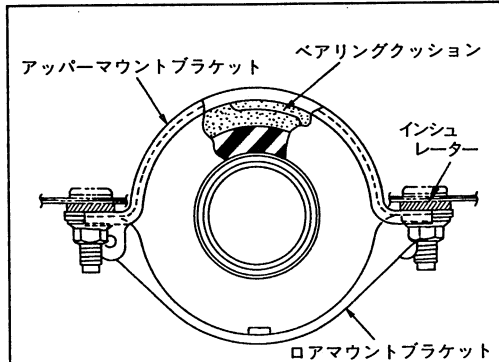
リヤプロペラシャフト



取り付けは、下記作業に注意し、取り外しの逆の手順で行う。

注意：プロペラシャフトの合いマークAとトランスファー及びファイナルドライブ側の合いマークBを合わせて取り付ける。

- プロペラシャフトとトランスファー取付ボルト
締付トルク (N-m {kg-m}) : 69 ~ 78 {7.0 ~ 8.0}
- プロペラシャフトとファイナルドライブ取付ボルト
締付トルク (N-m {kg-m}) : 64 ~ 74 {6.5 ~ 7.5}
- フロアレインホース取付ナット
締付トルク (N-m {kg-m}) : 21 ~ 26 {2.1 ~ 2.7}

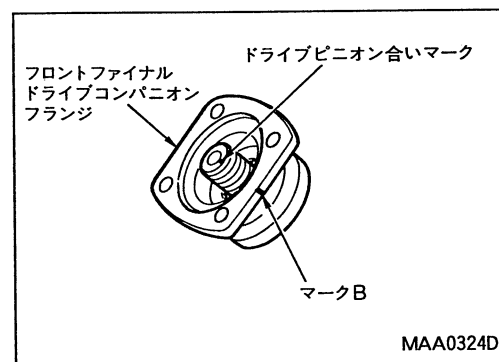
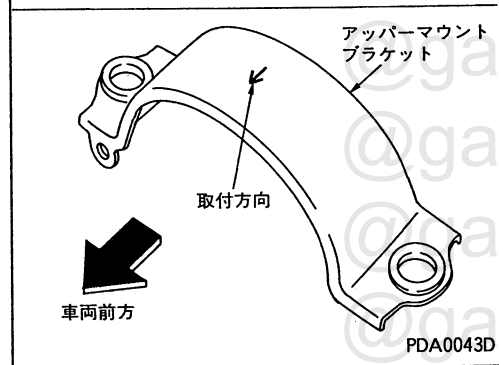


- 左図のように、センターベアリングのベアリングクッション接合部が必ず上になるようにベアリングを回転させ、インシュレーターに車両前後方向のたわみを与えないようにマウントブラケットの前後位置を調整して、車両に取り付ける。

注意：アッパーマウントの取付方向を左図のように、矢印を車両前方に合わせる。

- センターベアリング取付ナット
締付トルク (N-m {kg-m}) : 41 ~ 48 {4.2 ~ 4.9}

- 組み立て後、走行テストを行いプロペラシャフトに振れがないことを確認する。振れが感じられる場合は、プロペラシャフトとファイナルドライブを切り離し、コンパニオンフランジを90°、180°、270°ずらして再び取り付けそれぞれの位置でプロペラシャフトの振れを走行テストにより再点検する。



フロントファイナルドライブ

フロントオイルシール

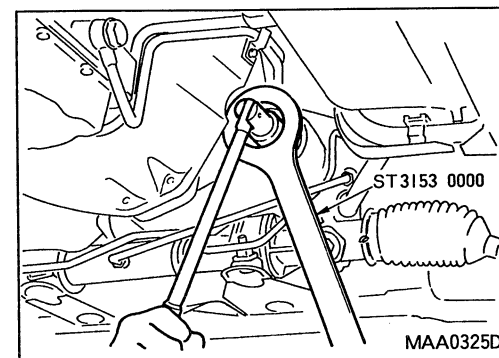
取り外し

1. プロペラシャフトを取り外す。(「プロペラシャフト」の項参照)
2. ファイナルドライブコンパニオンフランジのマークB位置に合わせて、ドライブピニオンのネジ部先端に合いマークを付ける。

注意：合いマークは、ペイントを用い、傷をつけない。

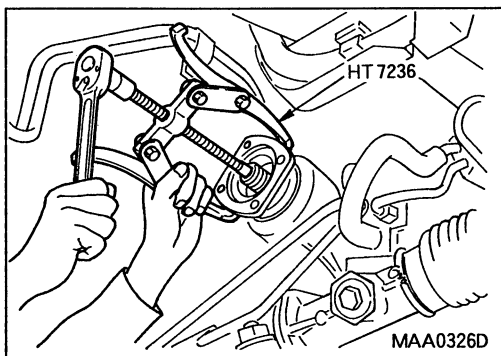
参考：マークBは、コンパニオンフランジインローが回転中心に対して外側に振れる最大位置

3. デフフランジツール (特殊工具) を用いて、ドライブピニオンナットを外す。

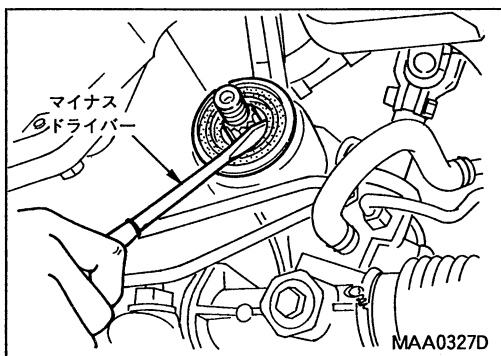


主な点検整備要領

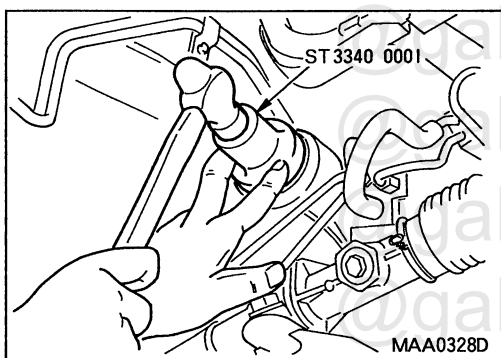
フロントファイナルドライブ (続き)



4. プーラー (汎用工具) を用いて、コンパニオンフランジを取り外す。



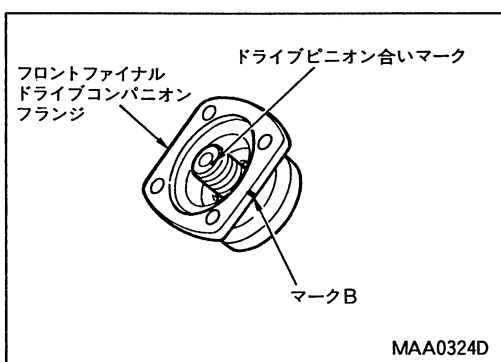
5. マイナスドライバーを用いてオイルシールを取り外す。
注意 : 取り外したオイルシールは再使用しないこと。



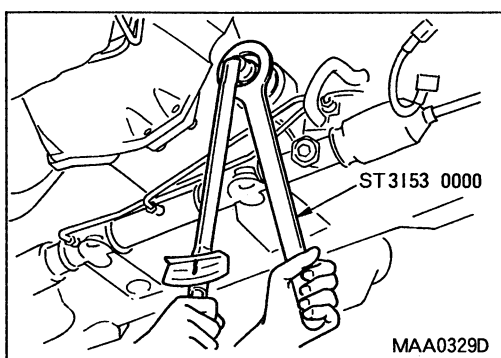
取り付け

1. オイルシールのリップ部にニッサンMPスペシャルグリースNo. 2を塗布し、左図のようにドリフト (特殊工具) を用いてオイルシールを取り付ける。

注意 : オイルシールは傾かないように取り付ける。



2. コンパニオンフランジの合いマークBと取り外し時に付けたドライブピニオンの合いマークを合わせてコンパニオンフランジを取り付ける。



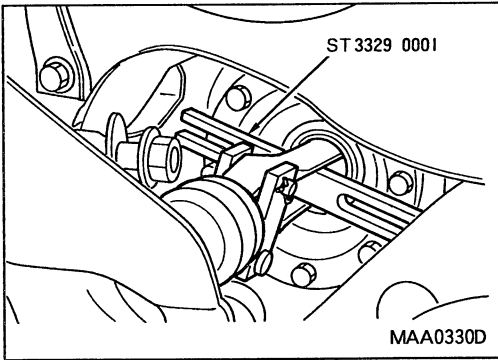
3. ドライブピニオンのネジ部及びピニオンナット座面に防せい油を塗り、ピニオンナットを取り付け、フランジツール (特殊工具) を使用して、規定トルクで締め付ける。

締付トルク (N-m [kg-m]) : 167 ~ 200 {17.0 ~ 20.0}

4. プロペラシャフトを取り付ける。
(「プロペラシャフト」の項参照)

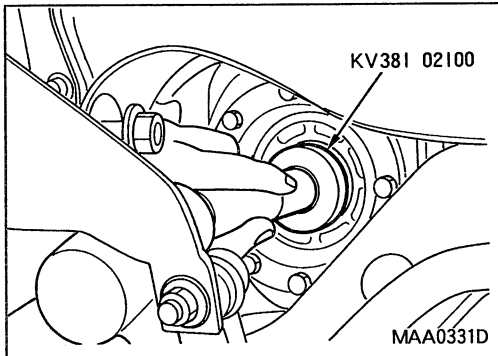
主な点検整備要領

フロントファイナルドライブ (続き) 右側サイドオイルシール



取り外し

1. 右側のドライブシャフトを取り外す。
(「DS編ドライブシャフト」の項参照)
2. オイルシールプラー (特殊工具) を用いて、オイルシールを取り外す。

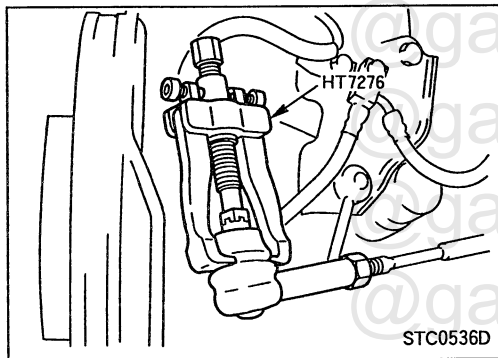


取り付け

注意 : サイドフランジは必ず右側から取り付けること。(左側から取り付けると、右側挿入時の衝撃により左サイドシャフトがずれる恐れがあるため)

1. オイルシールのリップ部にニッサンMPスペシャルグリースNo.2を塗布する。
2. ドリフト (特殊工具) を用いてケース端面と面一になるようにオイルシールを取り付ける。

注意 : オイルシールは傾かないように取り付ける。



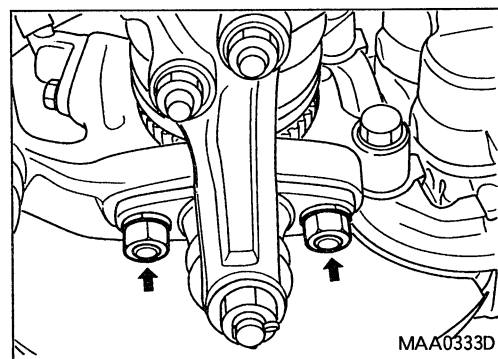
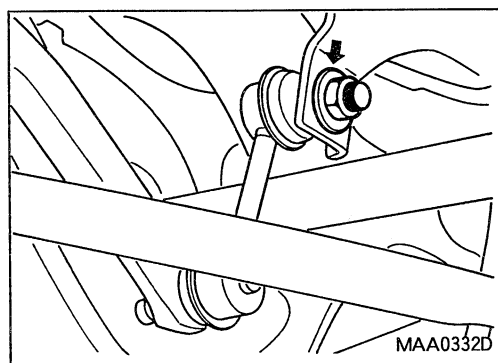
左側サイドオイルシール

取り外し

1. 左側のドライブシャフトを取り外す。
(「DS編ドライブシャフト」の項参照)
2. サイドシャフトを下記要領で取り外す。
(1) タイロッドのボールジョイント部コッターピンを外し、ロックナットを取り外し、ピットマンアームプラー (汎用工具) を用いてナックルスピンドルからタイロッドを取り外す。

注意 : タイロッドを取り外すときは、ナットの向きをかえてボルトとナットが面一になるまでナットを締め込んでおく。

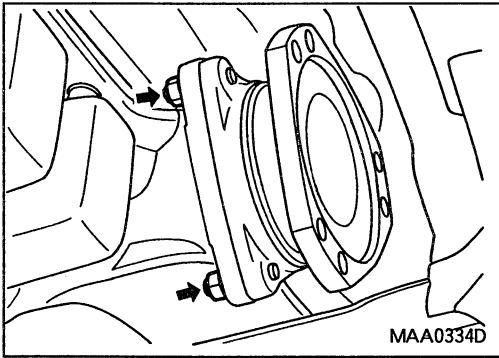
- (2) スタビライザーコネクティングロッドの取付ナット (1個) を取り外す。



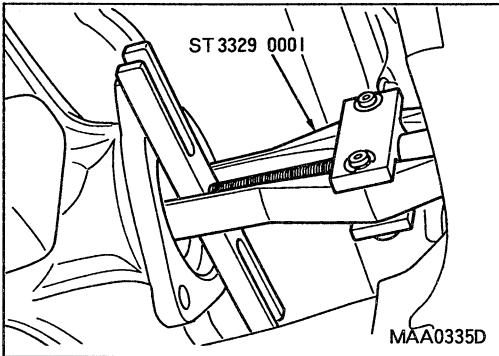
- (3) ブレーキホースを取り外す。
(「交換部品整備要領、ブレーキホース」の項参照)
- (4) ABSセンサーを取り外す。
(「スカイラインR33型整備要領書点検・脱着版 (A006023) BR編A BSシステム、センサー」の項参照)

主な点検整備要領

フロントファイナルドライブ (続き)

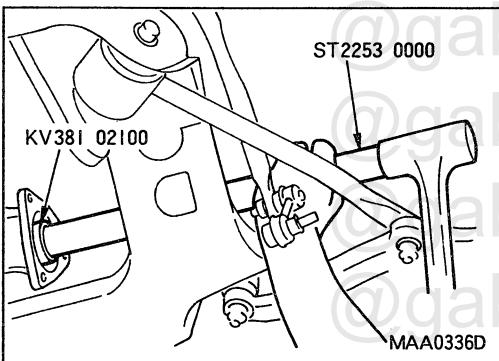


- (5) サイドシャフトの取付ナット (3個) を取り外し、サイドシャフトを取り外す。



5. オイルシールプーラー (特殊工具) を用いて、オイルシールを取り外す。

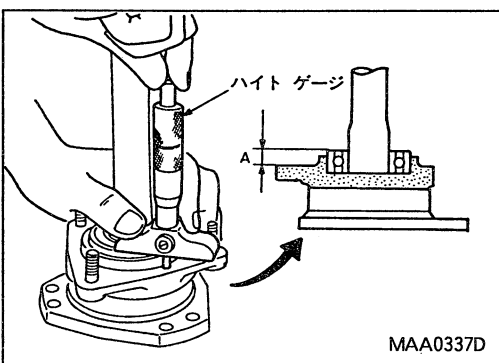
注意 : オイルシールは再使用不可部品のため取付時は新品と交換する。



取り付け

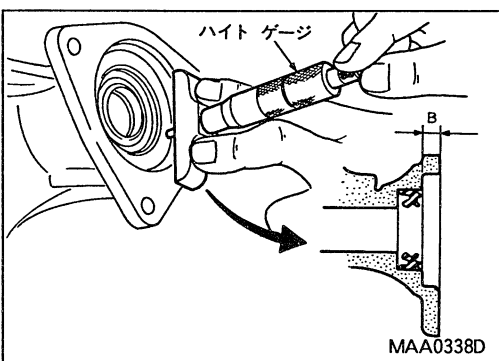
1. オイルシールのリップ部にニッサンMPスペシャルグリースNo.2を塗布する。
2. ドリフト (特殊工具) を用いてオイルシールを取り付ける。

注意 : オイルシールは傾かないように取り付ける。



3. サイドシャフトを下記要領でエンドプレーを測定し、取り付ける。

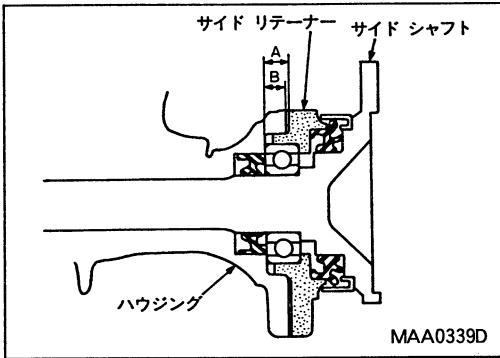
- (1) サイドシャフトの左図寸法Aを測定する。



- (2) キャリアケース側の左図寸法Bを測定する。

主な点検整備要領

フロントファイナルドライブ (続き)



(3) 軸方向エンドプレートを次式より算出する。

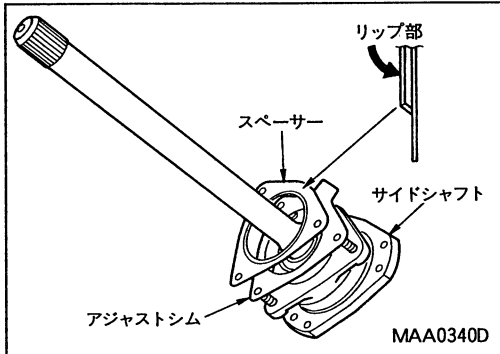
$$\text{軸方向エンドプレート} = A - B$$

(4) 軸方向エンドプレートが限度値以内になるよう下表よりアジャストシムを選択する。

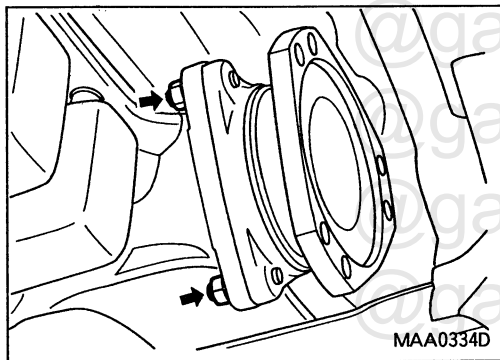
軸方向エンドプレート (mm) : 0 ~ 0.1

アジャストシム

厚さ(mm)	部品番号	厚さ(mm)	部品番号
0.1	38233 03V01	0.4	38233 03V04
0.2	38233 03V02	0.5	38233 03V05
0.3	38233 03V03		

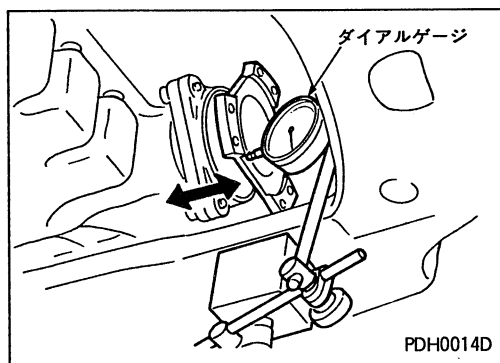


(5) 選択したアジャストシム及びスペーサーをサイドシャフトに組み付ける。



(6) 取付ボルトを規定トルクで締め付ける。

締め付トルク (N·m {kg·m}) : 16 ~ 21 {1.6 ~ 2.1}



4. 取り付け後、下記項目を点検する。

(1) サイドシャフトにダイヤルゲージを当てサイドシャフトを軸方向に移動させ、エンドプレートを点検する。

エンドプレート基準値 (mm) : 0 ~ 0.1

(2) サイドシャフトを2 ~ 3回往復回転させ、異音、回転不良及びガタがないか点検する。